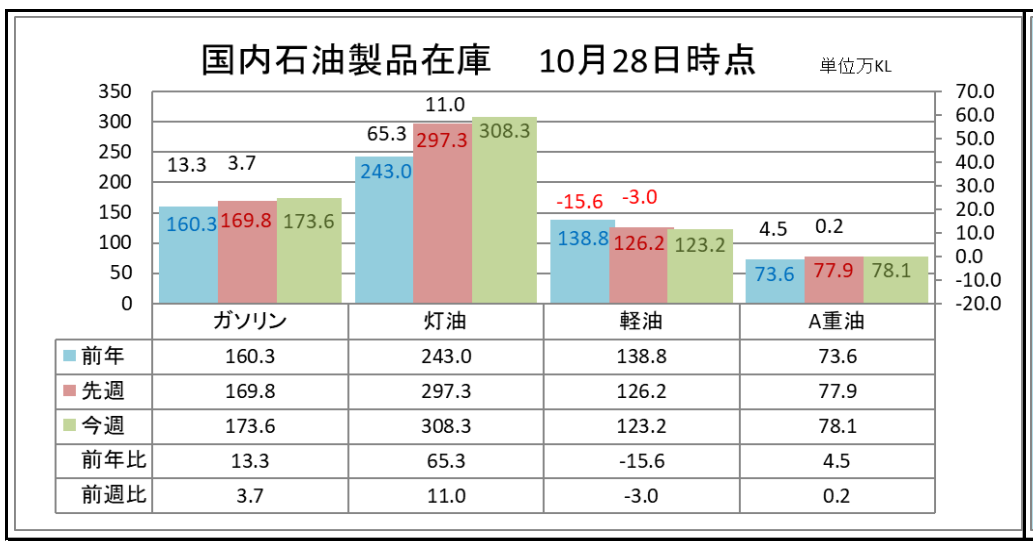
イデックスオイルレポート　~For a week~

2023/11/2 作成　(株)新出光

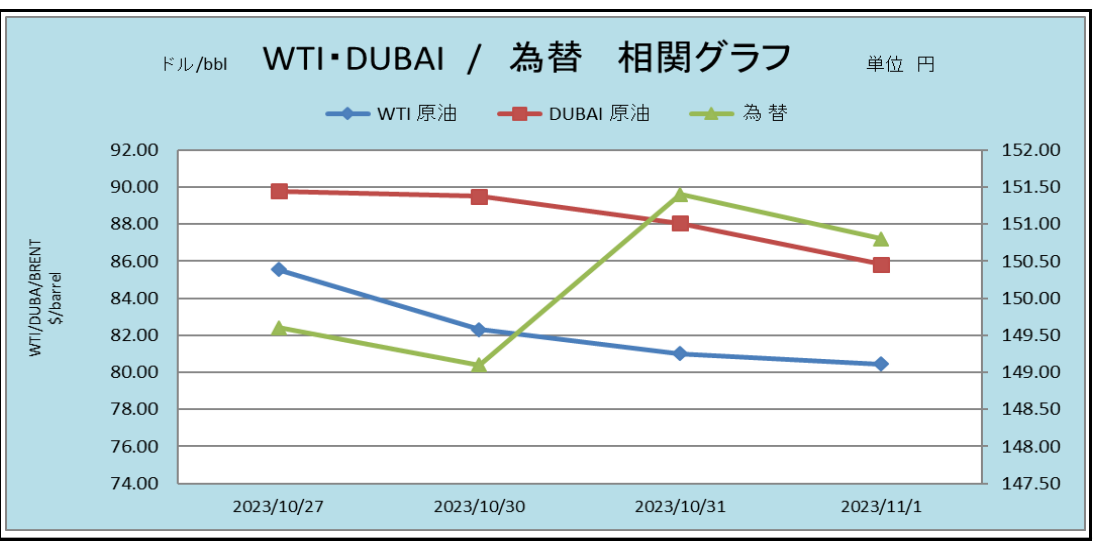
【概況】＜連邦公開市場委員会、政策金利の据え置きを決定・イスラエルとハマスの紛争懸念＞

●27日、ロイター通信によると、イスラエル軍のスポークスマンは27日、同国地上軍が27日夜にも作戦を拡大すると表明。ガザ市の住民に南に避難するよう呼びかけた。これを受けて、パレスチナ自治区ガザへのイスラエル軍の地上作戦が本格化するとの観測が強まり、パレスチナ情勢に対する警戒感が再燃。事態が一段と悪化すればエネルギー供給に影響を及ぼすとの不安が強まり、原油が買いが進まれ相場は85.54ドルへ反発しました。。また米財務省は27日、イスラム組織ハマス幹部や、パレスチナ自治区ガザの武装組織「イスラム聖戦」関係者、ハマスの資金調達に関与した団体を制裁対象に指定したと発表されました。
●30日、相場は前週末に地上戦の本格的な始まりを警戒し、買いが優勢となっていた。イスラエル軍は30日、イスラム組織ハマスが実効支配するガザでの地上作戦を拡大。軍報道官は部隊を追加投入し、「計画に従い徐々に前進している」と明らかにした。この日も一段と緊張が高まることへの警戒感は強かったものの、原油供給に混乱が生じていないとの見方から利益確定目的の売りが台頭。昼にかけて下げ幅を拡大し相場は82.31ドルへ反落しました。
●31日、ロイター通信が31日まとめた調査によると、10月のOPEC加盟国の産油量は前月比日量18万バレル増の日量2790万バレルとなった。ナイジェリアやアンゴラが輸出量を増やした。また、中国国家統計局が同日発表した10月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は49．5と、2カ月ぶりに景気の拡大・縮小を判断する節目の50を下回った。世界最大の石油輸入国である中国の景気先行きに不透明感が広がったことも、売り材料視されたもよう。相場は81.02ドルへ続落しました。ただ、中東情勢の緊迫化による石油供給不足への警戒感も根強く、下値も堅かった。イスラエルのネタニヤフ首相は30日、ハマスとの停戦に関して「テロへの降伏であり、あり得ない」と明確に拒否した。また、欧州連合(EU)統計局が31日発表した10月のユーロ圏消費者物価指数(速報値)の伸び率が2年3カ月ぶりの低水準となったことを受け、景気の下押し要因となり得る欧州中央銀行(ECB)による差し迫った利上げ観測が後退。原油需要が落ち込むとの懸念が和らいだことも下支え要因となった。
●1日、FRBは1日まで開いた連邦公開市場委員会(FOMC)で、政策金利の据え置きを決定。市場ではほぼ織り込み済みだったものの、決定後の声明では追加利上げの可能性が示唆された。追加利上げが実施されれば、景気への打撃から原油需要にも影響が及ぶとの連想から、発表後に売りが強まった。外国為替市場では対ユーロでドルが買われ、ドル建てで取引される原油の割高感につながったことも、相場の下押し要因とり80.44ドルへ続落しました。

11月2日	16:00現在	WTI原油	81.24ドル	為替　1ドル	151.62円



	ガソリン	灯油	軽油	A重油
前年	160.3	243.0	138.8	73.6
先週	169.8	297.3	126.2	77.9
今週	173.6	308.3	123.2	78.1
前年比	13.3	65.3	-15.6	4.5
前週比	3.7	11.0	-3.0	0.2



	次回元売変動予測	
	11/9～	元売変動予測
ガソリン	→	±0.0～+0.5
灯油	→	±0.0～+0.5
軽油	→	±0.0～+0.5
A重油	→	±0.0～+0.5
LSA	→	±0.0～+0.5

※原油コスト「-2.5円～-3.0円」
※激変緩和補助金「-30.0円」　前週比+3.0円
※現時点での予測です。

【製品卸価格】

≪今週≫今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「-2.0円」、補助金は、「-33.3円・60%」、都合「+0.4円」の値上げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの30日時点の小売価格平均は173.4円となっております。
≪11月3日以降≫次回の元売り改定は、原油コストは「-2.5円～-3.0円」、激変緩和補助金は「-30.3円・60%」の見込みで、都合「±0.0～0.5円」の改定の予測となっています。

【次世代エネルギー】＜最大30%のCO2削減効果が期待できる『新脱炭素燃料』製造装置の開発＞

株式会社ZEエナジー(代表:松下康平)と、株式会社 NextCarbon(代表:松下康平)が国内大手鉄鋼会社とも連携し、ゼロエミッション燃料としての活用が期待される「バイオマスコークス」製造装置の共同開発が開始された。
前社は、炭化装置を長年にわたって製造しており、大規模なバイオマスコークス生産装置の開発における豊富な知見があります。国内大手鉄鋼　　会社からバイオマスコークスのサンプル品提供依頼を受け、試作品装置の開発を進めています。CO2削減効果が期待できるバイオマスコークスの生産において、大量生産と低コストの実現が普及のカギになると考えており、鉄鋼業界の脱炭素化の実現に向けてフィリピン資源の活用を行う後社との連携によって脱炭素社会の実現に貢献できると考えております。
バイオマスコークスは、光合成によって形成される全ての植物から製造可能な固形燃料です。現状の石炭コークスからバイオマスコークスに原料を代替することで、最大30%のCO2削減効果が期待できる。また、従来のバイオマス燃料とは異なり、高い圧縮強度と高温環境下での長時間燃焼も可能で、製造過程での廃棄物が出ない特徴を持っています。

［出典］ PR RIMES:　https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000002.000129157.html

© 2023 SHIN-IDEMITSU Co.,Ltd.ALL rights reserved.